

IV-6 中国・四国

国内客が減少するもインバウンドが軒並み増加
広域連携や官学連携による観光振興が進展

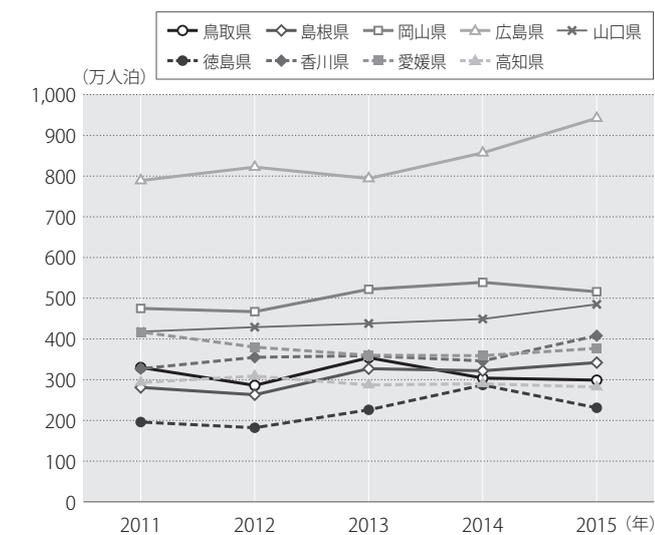
(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると15年1月～12月の各県の延べ宿泊者数については、中国・四国全体では3,883万人泊となり、前年比3.4%増となった。

延べ宿泊者数が増加したのは、島根県(対前年比6.2%増)、広島県(同9.9%増)、山口県(同8.0%増)、香川県(同17.7%増)、愛媛県(同5.0%増)となった。

一方で、延べ宿泊者数が減少したのは、鳥取県(対前年比1.6%減)、岡山県(同4.2%減)、徳島県(同19.3%減)、高知県(同2.9%減)であった(図IV-6-1)。

図IV-6-1 延べ宿泊者数の推移(中国・四国)



県	2011	2012	2013	2014	2015
鳥取県	330	286	354	304	299
島根県	281	263	327	322	342
岡山県	475	467	522	539	516
広島県	789	822	794	857	942
山口県	418	429	438	449	485
徳島県	196	182	226	287	231
香川県	327	355	359	346	408
愛媛県	417	380	360	359	377
高知県	293	309	287	290	282

単位：万人泊
資料：観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

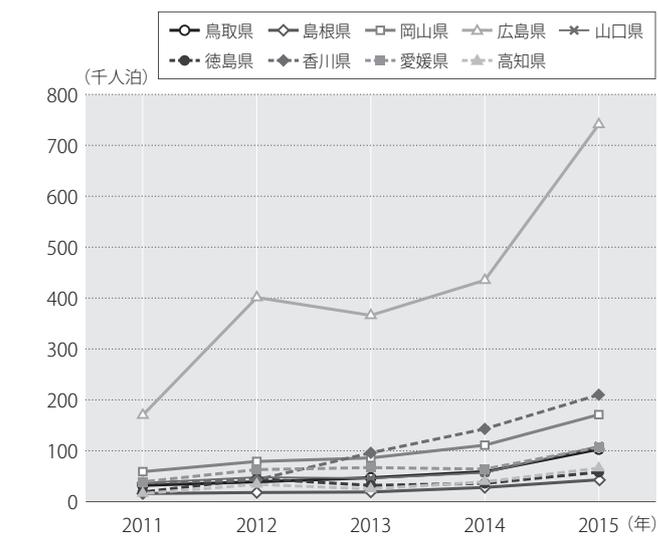
外国人延べ宿泊者数については、中国・四国全体では161万人泊となり、前年比65.7%増だった(図IV-6-2)。

いずれの県でも延べ宿泊者数が増加しており、伸び率の高い順に、山口県(対前年比93.1%増)、鳥取県(同75.8%増)、高知県(同70.7%増)、広島県(同70.3%増)、愛媛県(同

66.6%増)、徳島県(同62.3%増)、岡山県(同53.7%増)、島根県(同53.4%増)、香川県(同47.5%増)となった。

宿泊者の国籍・地域別の構成については、鳥取県は約半数(47%)が韓国で、次いで台湾(19%)、香港(12%)、中国(9%)となっている。山口県も約半数(47%)が韓国で、次いで米国(11%)、中国(10%)、台湾(8%)となっている。島根県、香川県、愛媛県、高知県は台湾が最も多く、韓国、香港の順となる。岡山県も台湾が多く21%、次いで中国(18%)、香港(10%)、韓国(10%)の順となる。広島県は米国(15%)を筆頭に、欧州(13%)、豪州(10%)、中国(8%)、台湾(8%)、その他(47%)と比較的多方面からの来訪がうかがえる。徳島県は香港が最も多く25%、次いで中国(15%)、台湾(12%)となっている。

図IV-6-2 外国人延べ宿泊者数の推移(中国・四国)



県	2011	2012	2013	2014	2015
鳥取県	32	39	47	59	103
島根県	16	18	19	28	43
岡山県	59	79	86	111	171
広島県	170	401	366	435	741
山口県	37	48	46	57	109
徳島県	19	45	32	36	58
香川県	37	43	96	143	210
愛媛県	39	63	67	64	107
高知県	16	34	25	39	66

単位：千人泊
資料：観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主要な動き

① 地方・都道府県レベル

● 増加するインバウンドへの対応

増加するインバウンドに向けて、各地域で対応した動きが見られる。

徳島県では15年9月より、県内の観光施設や宿泊施設での割引を受けられる「おどる宝島!パスポート」の英語版と中国語

版を発行した。利用者が同パスポートを提示すると入館料の割引やプレゼントが受けられる他、利用ごとにスタンプが押され、県産品などが当たる抽選にも応募できる。

鳥取県では、長期滞在者に人気のあるゲストハウスの増加を目指し、使用されていない旅館や民宿などの建物物件情報の収集を開始。多様化する宿泊ニーズへの対応、中山間部の古民家の活用、物件所有者の新たなビジネスモデルの可能性を探ることとしている。

●愛媛と鳥根の宿泊施設の連携による観光客誘致

15年3月の「中国横断自動車道尾道松江線（中国やまなみ街道）」の全線開通を受け、近旅連の愛媛支部（24施設）と鳥根支部（25施設）の連携による観光客誘致事業が開始された。両県を巡る2泊3日、3泊4日のツアー商品の販売や集客、PR手法を学ぶ研修会などを実施した。

●岡山県観光連盟と岡山県立大学の連携による

観光PRアニメ

岡山県観光連盟は、15年8月5日～31日にかけて、岡山県立大学と連携し、若い世代に県内の観光に関心を持ってもらおうと「おかやまミステリーハンタープレゼントキャンペーン」を実施した。これは同大学デザイン学研究科が制作したクイズ仕立てのアニメーション「おかやまミステリーハンター」（3分間）を見て、登場する観光スポットを当てると、抽選で湯原温泉や湯郷温泉の温泉旅館ペア宿泊券や岡山の高級ぶどうなどが当たる、というもの。

●広島県と県内3大学が連携したおもてなし向上策

広島県ではこれまで「広島県『みんなで』おもてなし宣言」や「観光地ひろしま!おもてなしアワード」をはじめ、県を挙げて観光客の受け入れに注力してきた。こうした取り組みをさらに推進しようと、県と県内3大学（県立広島大学、比叡山大学、安田女子大学）が連携し、「観光地ひろしま!おもてなし研究部」が15年7月に発足した。3大学の学生計50人が同10月までの活動期間中に、観光客に対する県内各地のさまざまなおもてなしの中から優良な取り組みを見つけて取材し、前述の「観光地ひろしま!おもてなしアワード」への応募。県民全体でのおもてなし向上を目指した。

●「薩長土肥」で広域観光連携

15年8月、山口、高知、佐賀、鹿児島県の4県と各県の観光団体が「平成の薩長土肥連合」を発足させた。18年の明治維新150年に向け、連携して周遊ルートや「幕末」「明治維新」をキーワードとしたクルーズの提案、広域観光周遊ルートの形成、協働PRなどを展開していく。また、行政職員の交流を通じて、共通課題に対する政策ノウハウの構築を意図している。もともとは、鹿児島県と山口県の観光連盟が盟約を締結し「薩長連合」を発足させたが、高知県と佐賀県にも連携拡大を打診し、4県の盟約締結に至った。

●瀬戸内国際芸術祭2016

瀬戸内海に浮かぶ香川、岡山両県の島々と港を会場とする「瀬戸内国際芸術祭2016」の春会期が16年3月20日～4月17日の日程で開催された（夏期：16年7月18日～9月4日、秋季：16年

10月8日～11月6日、総計108日間を予定）。第3回を数える本トリエンナーレは、12の島と2つの港（直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島（春）、本島（秋）、高見島（秋）、粟島（秋）、伊吹島（秋）、高松港周辺、宇野港周辺）を舞台に、国内外のアーティストによる作品を展示。さらには「海でつながるアジア・世界と交流」「瀬戸内の『食』を味わう『食プロジェクト』」「地域文化の独自性の発信」に力を入れて展開していくとしている。また、日本一の松盆栽の産地であり、約800もの獅子舞団体を擁す香川県ならではのイベントも行われる。

インバウンドに向けては、高松空港との国際線就航都市などを中心に、積極的に情報発信を行った他、5カ国語（日・英・簡体字・繁体字・韓）に対応した公式ホームページ、英語版ガイドブックの作成、芸術祭関連エリアの無料Wi-Fi整備、交通アクセス・地図・緊急情報などを提供するアプリ（日・英対応）の開発などに当たった。

●徳島県がオープンデータポータルサイトを本格運用

徳島県は、県が保有する行政データを一元的に公開する「徳島県オープンデータポータルサイト（Our Open Data）」について、昨年度の仮公開から大幅リニューアルし（表IV-6-1）、15年4月より本格運用を開始した。同サイトは、徳島県内における公共データの活用環境の整備を目的としたポータルサイトで、①県および市町村が保有するオープンデータを閲覧・利用、利用者保有のオープンデータを登録できるデータカタログサイト、②公共データを利活用したアプリケーションの検索・登録ができるアプリマーケットサイト、③県民のニーズを広く集め、コミュニティを活性化させるためのアイデアボックスサイト、の3つのサイトを提供している。

表IV-6-1 徳島県オープンデータポータルサイトの改善点

リニューアルのポイント	概要
①アプリマーケットサイト（新設）	容易にオープンデータを利活用したアプリケーションを利用、登録できるようにした。
②アイデアボックス（新設）	利用者間のコミュニケーションの活性化や行政・各種団体等に対して、気軽に要望や意見を伝えることができるようになった。
③クローリング機能 ^(注) （追加）	更新頻度の高いデータにおいては、この機能を利用することで、容易に最新のデータを保つことができるようになった。
④ファイル変換機能（追加）	容易に5つ星オープンデータ（Linked Open Data）を作ることができるようになった他、語彙に関しては、共通語彙基盤 コア語彙2（Ver 2.2）（独立行政法人情報処理推進機構）に対応。
⑤県HP、総合地図提供システムとのシステム間連携を強化	職員が容易にオープンデータを登録できるような仕組みとし、より本ポータルサイトにより多種多様なオープンデータを登録できるようにした。
⑥デザインを刷新	全体的な明るさ等を改善。

(注) 指定のファイルが更新されているのかどうかを定期的に巡回し、知らせてくれる機能
資料：徳島県ホームページをもとに（公財）日本交通公社作成

②広域・市町村レベル

●生活圏・経済圏を一体とする広域での取り組み

生活圏・経済圏を一体とする鳥取県東部（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町）および兵庫県北但西部（香美町、新温泉町）の1市6町において、圏域全体の活性化と定住できる圏域づくりを進めていくため、15年8月以降、「鳥取因幡・兵庫北但西部連携戦略会議～麒麟のまち創生戦略会議～」を開催。移住定住相談会や広域観光グランドデザインの策定、圏域観光ルートの創出、海外プロモーション活動などの取り組みを進めている。

●道後温泉の活性化策を策定

道後温泉は、15年4月に行政と民間が協働で取り組む「道後温泉活性化計画」を策定した。同計画は、将来像として「百年輝き続ける最古の湯 道後～外湯文化を受け継ぐおもてなしの環～」を掲げ、15年度を初年度とし、道後温泉本館130周年を迎える24年度までの10カ年計画となっている。「えひめ国体」を迎える17年度までの3カ年を短期、18年度から東京オリンピック開催の20年度までを中期、それ以降の24年度までを長期として、3段階に分けて計画の推進を行っている。

「5つの環（わ）」として取りまとめた道後温泉活性化の基本方針を踏まえ、「椿の湯周辺エリア」「上人坂周辺エリア」「本館・冠山周辺エリア」の3つを重点整備エリアとし、来街者のアクセシビリティの向上を図る交通結節点の改善、並びに民間開発事業の景観づくりを誘導している（表IV-6-2）。

また、観光客・宿泊客の減少緩和の効果的な施策や観光資源の魅力向上策、耐震化への対応が喫緊の課題となっている道後温泉地区のホテル・旅館などに対して、円滑な施設投資の支援策などの活性化施策を進めていくために、行政と民間が協働で進める「魅力向上・賑わい創りの総合的な対策」も併せて策定した。

●大規模災害時を想定した計画策定

道後温泉旅館協同組合では、15年5月に大規模災害を想定した「宿泊者災害時対応計画」を策定した。大災害時は、組合加盟の施設が帰宅困難となる宿泊客らを引き受けるなどし、観光客の安全確保に努めるという。

最大震度6弱以上の揺れや大津波警報の発令などで愛媛県災害対策本部中予地方本部が設置され、公共交通機関が機能を停止し宿泊客の帰宅が困難な場合に適用する。

表IV-6-2 道後温泉活性化基本計画の概要

将来像	百年輝き続ける最古の湯 道後～外湯文化を受け継ぐおもてなしの環～
基本方針 (5つの環と 7つの対応方針)	<p>I. 風景の環 【①道後固有の風景や街並みを活かしたおもてなしの場づくり】 道後地区の地形・眺望を活かした空間整備や、道後固有の風景を守り際立たせていく街並みづくりを目指す。 建築物は、耐震改修やリノベーションにあわせファサードに配慮することで、災害時のリスク回避と景観整備を同時に実現する。</p> <p>II. 交通の環 【②安全快適な歩行空間の実現】 地域資源をつなぐ安全な交通のネットワークづくりを実現するために、駐車場や駐輪場を整備し、道後温泉地区に流入する車両交通を抑え、住民や観光客が安心して生活し散策できるための都市基盤を整備する。加えて、路地や広場の整備により道後温泉地区の回遊性を向上させ、滞留できる空間を実現する。</p> <p>III. 時間の環 【③まちなか滞在スポットづくり】 日本最古の湯「道後温泉」が培ってきた歴史的な空間を観光資源や地域コミュニティの資産として大切に守り・活用しながら、道後温泉の歴史・文化が体感できるまちづくりに取り組み、質の高い時間消費を実現する。</p> <p>IV. にぎわいの環 【④道後ブランドの新たな魅力発信】 新規顧客とリピーターに向けた情報発信や様々なプログラムを導入し続け、地域の活性化が持続的・発展的に展開されることを目指す。 【⑤多様な客層の誘客】 インバウンドなど多様化する観光ニーズを的確に捉えながら、道後温泉地区の各エリアに新しい人の流れをつくり、消費を生むことで、地域全体に経済が流れ活性化していく仕組みをサポートする。</p> <p>V. つながりの環 【⑥地元による地域経営】 地域全体でまちづくりに参加できる仕組みづくりについてサポートする。 補助金だけに依存しない財源づくりを検討し、持続的かつ先進的な地域経営を目指す。 地域が互いに連携しながら災害に強いまちづくりの実現を目指す。 【⑦地域を越えた連携による誘客】 地域住民だけでなく地元学生や観光客まで巻き込み、市内外及び県内外の他地域と連携しながら誘客促進を目指す。</p>
3つの重点エリアの コンセプト	<p>I. 椿の湯周辺エリア ・「日本最古の湯」を再現した空間の創出 ・「まちの湯」の継承</p> <p>II. 上人坂周辺エリア ・楽しく賑わう門前町 ・歴史をつなぐ空間の創出</p> <p>III. 本館・冠山周辺エリア ・本館を臨む展望スポット ・安心して散策し憩える空間の創出</p>
期間	平成27年度～平成36年度（10年間）

資料：「道後温泉活性化基本計画」をもとに（公財）日本交通公社作成

計画によると、受け入れは宿泊客や予約客、チェックアウト後に周辺地域にいて帰宅困難となった元宿泊客が対象。日帰り観光客らに対しても緊急避難的な措置として一時的に受け入れることとした。飲料水とトイレ用の水の確保を重要課題に掲げ、ピーク時の最多宿泊人数と従業員数の計3日分の確保が必要とし、各施設が非常用ペットボトルの備蓄や貯水タンクの大型化に努めることを明記した。

●道後アート2015開催

道後温泉では、道後温泉本館の改築120周年を記念した芸術祭「道後オンセナート2014」の基本コンセプト「最古にして、最先端。温泉アートエンターテインメント」を継承し、メインアーティストに写真家・映画監督である蜷川実花氏を迎え、「地域資源+アート=まち巡り」をテーマに新たなイベントを15年5月から16年2月にかけて展開した。5月には第1弾として、同氏の写真でラッピングした路面電車を走らせた他、道後温泉の商店街入り口アーケードや陣幕、神の湯や霊の湯入り口の暖簾なども同氏の写真を活かして、普段と異なる表情の道後温泉を演出した。7月には第2弾として、道後温泉に合わせた浴衣や映像を投影するなど、観光地ならではの作品を制作し展開した。さらに、10月には第3弾として道後温泉本館をライトアップして彩る作品を展示した。

また、著名アーティストがデザイン監修をした「ホテルホリゾンタル」は、「泊まれるアート」として宿泊客から好評を得、客室を見学に訪れる観光客も少なくなかったことから、当初15年1月まで予定していた実施期間を延長した。

●サイクリングブームを背景にした動き

全国有数のかんきつ類の産地として知られる尾道市瀬戸田町のテーマパーク「シトラスパーク瀬戸田」が「健康」をテーマにした観光スポットとしてリニューアルする。同園は世界中から集めた500種類のかんきつ類（シトラス）を展示する施設として

98年3月、「瀬戸内しまなみ海道」の開通に合わせてオープンし、開園時は年約52万人が訪れたが、近年は約5万人にまで落ち込み、休園も検討されていた。しかし、サイクリングブームが続く中、瀬戸内しまなみ海道が「サイクリストの聖地」として注目され、「瀬戸内しまのわ2014」でさらに注目が集まったことから、尾道市はリニューアルする方針を決めた。建物と土地の半分は県の所有だが、リニューアルに合わせて、県が市に無償譲渡する。リニューアル後は「健康」をテーマに「食」「運動」「市民交流」を備えた観光公園として整備。地元の旬の食材を使った料理を提供するレストランやサイクリストが集える休憩所などの案が挙がっている。

また、しまなみ海道では、佐川急便が尾道市と今治市のホテルと提携し、サイクリスト向けに手荷物当日配送サービスを15年7月まで試行した。当初の提携ホテルは尾道側が4軒、今治側が5軒の計9件で、サイクリストの手荷物の当日配送をチェックアウト後に受け付け、手ぶらでサイクリングを楽しんでもらうこととした。その後、本格的にサービス提供を開始し、尾道側が22軒、今治側が30軒の計52軒が提携している。

●気軽に旅館を楽しんでもらう試み（三朝温泉）

三朝温泉旅館協同組合では、敷居が高いとされる旅館の門戸を開き、気軽に楽しみながら各館を巡り歩いてもらうことで誘客や利用促進につなげることを目的として、宿泊客以外でも旅館内を楽しめる「宿調（やどしら）」サービスを15年5月から開始した。同サービスには組合加盟の22軒の旅館が参画し、玄関付近に旅館の案内文など、特徴が分かる大型の共通デザイン看板を設置した。このうち、スタッフによる館内案内や自由館内見学ができる旅館13館については、「お宿拜見」のマークを看板に表示し、気軽に旅館を楽しんでもらう工夫を行っている。

（清水雄一）